

令和4年度 自己点検評価報告書（保健医療学研究科）

全体的な状況と評価

保健医療学研究科は、大学の理念・目的の基に、「地域の保健医療を支える」を基本理念として、保健医療の分野に関してより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、総合的な調整能力・指導力・教育力等を有する高度専門職業人を養成することにより、本県の保健医療関係職種の質の向上を図り、もって県民の生涯を通じた健康づくりと保健医療水準の向上に寄与することを教育研究上の目的としている。この目的を実現するため、研究科に携わる教職員（全員が保健科学部教職員と兼任）が保健科学部の活動とともに日々の教育・研究活動に取り組んでいる。そのため、本報告書では、教育活動・学生受け入れを中心に研究科として自己点検評価した結果を報告する。

その結果、大学および法人が示す第二期中期目標を順調に達成することができたと評価しており、現在では第三期中期目標の達成に取り組んでいる。また、大学基準に沿った教育についても概ね良好な状況で行えていると考えている。なお、中期目標にそった自己点検評価の詳細は年度ごと、中期計画期間ごとの全項目の自己点検評価結果（業務実績報告書）に記している。

教育課程・学習成果

教育課程・学習成果に関する看護学専攻・医療技術科学専攻の自己点検評価は以下のとおりであるが、いずれの専攻も、大学基準を満たした教育が展開できていると考えられる。一方で、学位授与方針にそった学習（学修）成果の可視化についての課題に取り組むために、令和4年度より全学的な教育に関する内部質保証を行う組織として教学マネジメント委員会をスタートさせた。現在は同委員会を中心として学位プログラム単位としての研究科、看護学専攻、医療技術科学専攻の学習（学修）成果の可視化に取り組んでいる。特に研究科は在籍学生数が少ないために、学習（学修）成果の可視化には工夫が必要であると考えており、教学マネジメント委員会を中心に研究科長及び研究科、両専攻長及び両専攻において学習（学修）成果の可視化への更なる開発や取り組みが必要であると考えている。

看護学専攻 自己点検報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ。

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善

することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい

2.3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

教育目標、学位授与方針（DP）の達成、教育課程の編成の適切性評価については、修了時の学生アンケート、単位取得状況、GP、GPA、特別研究の成績等を検証の根拠とし、関連委員会から提出されたデータを可視化し評価している。令和3年度まではカリキュラム委員会を中心に実施していたが、令和4年度からは教学マネジメント委員会に役割を移行した。実施結果についてはカリキュラム委員会／教学マネジメント委員会で結果を分析するとともに、各専攻にフィードバックし、それぞれの自己点検と合わせて課題の明確化と改善策を検討している。カリキュラム改正が必要と判断した場合には、全学内部質保証推進組織である運営戦略会議から臨時的にカリキュラムプロジェクトチームを設置するよう指示され、新カリキュラムの検討を行ってきている。

学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の関連性については、授業科目ごとに関連するDPをチェックし、カリキュラム・マップを通して教学マネジメント委員会が全体の適切性を確認する。また、各科目で関連を設定したDPとGPAを比較することで関連の適切性について検証する体制を整え、今後の分析に加える予定である。【研究科共通】

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

1年次教育に、地域の保健医療に係る諸現象や他職種を理解し、視野の広い判断能力・指導力・管理能力・教育力等の基盤修得できるように、生涯教育学特論、保健医療統計解析、疾病制御学特論等の共通科目を設けている。また、専門分野や特別研究を深く学習するにあたり、看護学としての共通学修科目を設定している。また、基礎看護、育成支援看護、成人看護、高齢者看護、精神看護、地域看護の各専門領域の内容理解を深化できるように科目を配置している。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修士としての能力育成の観点から、共通科目、専門共通と専門分野からなる専門科目を1年次に配置している。また、DPに示されている能力育成については、その要素を各種科目に配置するとともに、1年次の特別研究Ⅰにて論文研究計画発表、2年次の特別研究Ⅱにて論文発表会を実施するなど、段階的に学修を積み重ね、専攻する専門分野の学修の集大成として特別研究により発展させ、修士学位論文の作成へとつながるカリキュラムを編成している。【研究科共通】

3.3 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学設置基準第21条を準用することとなっているため、本学も、講義1単位15時間、演習1単位30時間を原則としている。全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定するとともに、単位及びその修得について明示している。【研究科共通】

3.4 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

毎年度、DP評価および授業評価アンケート結果をもとに、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示している。

3.5 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

国における「大学における看護系人材養成の在り方検討会」でのモデルコアカリキュラムで提示された能力を修得した学生がさらに発展的に能力育成できるように、健康に関連する現象の分析や構造化、リーダー的役割、科学的な探求方法や態度について、専攻の AP、CP、DP に位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.6 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

看護学としての共通科目として、看護研究方法論 I と II、看護管理学特論、理論と看護実践論を 1 年次に配置し、専門分野や特別研究を極めるうえで基盤となる科目を学修できるようにしている。続いて、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていけるように設定されている。

3.7 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業科目のナンバリングを通して各授業の性格を可視化することによって、個々の学生がリサーチワークとも連動させながら、主体的なコースワークを選択し、研究能力を段階的に高めていくことができるように工夫している。リサーチワークとしての修士論文の作成に重きをおき、指導教員による授業内外での個別指導に加えて、「修士学位論文研究計画発表会」「修士学位論文中間報告会」等を通じて、学生の調査・研究能力の向上を図っている。また、「研究指導計画」を策定し、標準在籍期間におけるコースワーク・リサーチワークの大枠を明示している。社会人学生がほとんどで長期履修制度を利用する学生が多い本専攻の状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、学生と話し合いながら実施している。

3.8 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業評価アンケートや教育目標の達成とカリキュラムに対する評価等から明らかになった課題を運営戦略会議に報告し、同組織がカリキュラム改正の必要を判断。令和 3 年度改正を目途に、新カリキュラム検討プロジェクトチームを発足させた。プロジェクトチームには、運営戦略会議構成員の学部長をオブザーバーとし、随時、運営戦略会議との連携がとれるようにしていた。提案された教育課程編成については研究科委員会・教務委員会の審議を経ている。令和 4 年度からは教学マネジメント委員会が教育における内部質保証の中心を担うこととして再スタートした。

3.9 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了後にも看護実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけること、看護実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法や態度を身につけられるように、共通科目、専門科目を通じてこれらの能力育成を自身で考える機会を提供している。また、教育協力者や非常勤講師による具体的な看護実践を聞く機会や、修了生による修了後の体験等についても共有できる場を提供している。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業計画への自主学習情報の記載と提示、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価を行っている。また、授業の評価とFDについては、学生による授業評価や教員間のピア・レビューなどを取り入れて単位の実質化を図るための措置をしている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各専門分野内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。また、特別研究ⅠやⅡでは、学内教員による相互参観授業を積極的に取り入れ、フィードバックを行っている。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

社会人学生が多い本専攻の状況にも配慮し、学生の学修状況に応じて、DP等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを配布して周知している。特に近年は、コロナ対策にて対面学習からオンライン学習に変更になることが多かったが、その都度、学生に周知を行っている。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業形態に事例検討やフィールドワークを取り入れ、事例の多面的な見方や実践から得られた情報等を総括していく機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、反転授業、グループによる文献のクリティークなどを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業時の開始時に前回の学習内容のフィードバックや学生からの質問時間を確保し、学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、入学前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施している。また、修了生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。科目履修については、研究指導教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応し指導を行っている。職業との両立を図るため、大学院設置基準第14条特例を適用し、授業を夜間や土曜日・日曜日に実施するほかに、オンラインによる指導も適宜取り入れている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、学生の理解度を確認しながら指導を行っている。また、発話や具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や事前課題に対して、授業時内外に学生の学びのフィードバックを行うとともに、他の課題との重複で過重負荷になっていないか締め切り日の設定など確認しながら行っている。

4.8 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

専攻全体の研究指導計画に従って、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の個別指導計画書を立てている。また、論文研究計画発表会においては隣接領域を含む教員が院生に対組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。発表会では、院生が用意した研究計画を踏まえて、さらに掘り下げるべき点や欠落している点などを指摘して、論文の完成に向けた詳細なコメントを加えている。論文中間発表会では、修士課程1年生が発表会を運営し、次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立っている。論文中間発表会と発表会では、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、効果はあがっている。

4.9 各専攻における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業内外の学生の学習を活性化し効果的に行うために実施した内容と実施状況について、各専攻内で共有を図るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告している。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

各科目の成績評価は担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じてレポートなどの結果で成績評価が行われている。【研究科共通】

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、他大学等での既修得単位については、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行うしくみを整えているが、これまで該当例はない。【研究科共通】

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置は講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて授業参加やレポートなどの結果で成績評価が行われている。論文作成にあたっては、本専攻は主指導教員の他に副指導教員を配置す

ることを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保している。令和3年度からの新カリキュラムでは特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を詳細に定め、より客観性・公正性を担保した。また、教授会において、専攻別のGPA集計表が配付され、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を検証している。【研究科共通】

5.4 修了要件を明示していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了要件は学則第37条に明示されており、看護学専攻では、全学的な取り組みに添って、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、修了要件を口頭でもガイダンスを行っている。学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、論文発表会における指導によって学位論文および最終試験の審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。【研究科共通】

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、教務委員会での審議を経るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長（学科長）から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

5.6 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学生に対して学位授与方針と学位論文審査基準の明示と公表を行っている。

5.7 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置を講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学位論文発表会（最終試験）及び口頭試問審査意見の機会を設けており、いずれも指導教員以外の複数の教員が参加している。これらの結果と教務委員会による取得単位の確認とを合わせて、最終的に研究科委員会で判定することで、学位審査及び修了認定の客観性と厳格性を確保している。【研究科共通】

5.8 学位授与に係る責任体制及び手続を明示していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、あらかじめ公表されている手続と日程にそって院生に修士論文を提出させ、指導教員が副査、他の教員が主査・副査となって審査を行っており、学位授与に係る責任体制及び手続きを明示している。【研究科共通】

5.9 適切に学位を授与していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学位授与方針を明示するとともに、学位請求論文の査読と口頭試問の結果に基づいて、教員による審議を行って学位の授与を決定している。【研究科共通】

5.10 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学位論文審査及び修了認定を適切に行うための措置、学位授与を適切に行うための措置について「学位授与規程」に添って実施している。学位授与の判定は運営戦略会議の構成員を含む教授のみの研究科委員会で実施されている。同規程の改正の必要がある時には教学マネジメント委員会から研究科委員会に問題提起し、各専攻の意見を集約して決定していく予定。本報告書は教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長（学科長）から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会において設定された指標（新入生アンケート、単位取得率、授業評価アンケート結果、GPA 評価、DP アンケートおよびカリキュラム・学習環境等評価アンケートの結果等）を学習成果測定の指標として活用している。加えて、特別研究の成績を指標に学修成果を把握している。また、看護学専攻の特性に応じた学位授与方針および論文審査基準、特別研究 I・II の評価基準を定めている。

6.2 学位授与方針に明示した学習成果を把握及び評価するための方法を開発していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメントが学位授与方針に明示した学習成果を把握及び評価のためのアセスメントプランを設定しており、DP に関する学習成果に関するデータや修了生自身に対するアンケートの実施を通して、DP に関する学習成果の把握・評価につなげている。加えて、個別授業で受講者が行う課題や研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数のものが多いので、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、助言やフィードバックを随時行っている。また、論文中間発表会および論文発表会での研究発表は、学習成果を組織的に把握し、院生らの到達度を評価できる方法となっている。他にも、学部の実習等で修了生の就職先とも密に関わり、そこで得られた現場での意見等についても専攻内で共有している。

しかし、所属学生数が少ないこともあり、現在の評価が最適とは考えておらず、客観的な評価指標や方法については今後も開発を継続する必要があると考える。

6.3 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

専攻の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定、学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発状況等について、アセスメントプランに添って取得・分析したデータからの検討課題や IR データを教学マネジメント委員会から提供を受け、専攻内で検討したことを報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長（学科長）から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、研究科委員会をほぼ毎月開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について検討を行い、研究科委員会で審議を行っている。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、GPA 評価および授業評価アンケート結果に基づき、各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、専攻の取組みとして、学生の学習効果に

貢献した指導方法等を専攻内教員で共有する機会を設けている。

(2) 長所・特色

全学的な取り組みのもと、看護学専攻では、全専任教員が参加する論文研究計画発表会、論文中間発表会を設け、計画発表会で各々の大学院生の研究構想に対してその方向性に関する多面的な助言や指摘を行うとともに、中間発表会で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制が整っている。

(3) 課題・問題点

修了後の学術集会での発表や学会雑誌への投稿の割合が高まってきたが、コロナ対策に従事する修了生も多く、修了後 1 年以内の発表や公表ができていない現状があり、速やかな研究成果の公表については課題がある。また、学部同様にコロナ対策下においてオンライン授業を積極的に活用してきたが、対面授業と比較したメリット・デメリットの分析については今後検討していく必要がある。小規模大学であるが故に固定化した教育になっており、客観的な教育課程の評価が十分ではないことが課題である

医療技術科学専攻 自己点検報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ。

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい

2.3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教育目標、学位授与方針（DP）の達成、教育課程の編成の適切性評価については、修了時の学生アンケート、単位取得状況、GP、GPA、特別研究の成績を検証の根拠とし、関連委員会から提出されたデータを可視化し評価している。令和3年度まではカリキュラム委員会を中心に実施していたが、令和4年度からは教学マネジメント委員会に役割を移行した。実施結果についてはカリキュラム委員会／教学マネジメント委員会で結果を分析するとともに、各専攻にフィードバックし、それぞれの自己点検と合わせて課題の明確化と改善策を検討している。カリキュラム改正が必要と判断した場合には、全学内部質保証推進組織である運営戦略会議から臨時的にカリキュラムプロジェクトチームを設置するよう指示され、新カリキュラムの検討を行っている。

学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関性については、授業科目ごとに関連するDPをチェックし、カリキュラム・マップを通して教学マネジメント委員会が全体の適切性を確認する。また、各科目で関連を設定したDPとGPAを比較することで連関の適切性について検証する体制を整え、今後の分析に加える予定である。【研究科共通】

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

1年次教育に、地域の保健医療に係る諸現象や他職種を理解し、視野の広い判断能力・指導力・管理能力・教育力等の基盤修得できるように、生涯教育学特論、保健医療統計解析、疾病制御学特論等の共通科目を設けている。また、専門分野や特別研究を深く学習するにあたり、医療技術科学としての共通学修科目を設定している。更に、分子細胞生物学、遺伝子検査学、感染制御学、病理細胞診検査学、生体防御学、生体機能検査学、病態情報解

析、血液病態検査学の各専門領域の内容理解を深化できるように科目を配置している。令和5年度からは時代の要請に合わせ、感染症学特論・演習を追加し、感染症専門検査技師プログラムを設置した。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修士としての能力育成の観点から、共通科目、専門共通と専門分野からなる専門科目を1年次に配置している。また、DPに示されている能力育成については、その要素を各種科目に配置するとともに、1年次の特別研究Ⅰにて論文研究計画発表、2年次の特別研究Ⅱにて論文発表会を実施するなど、段階的に学修を積み重ね、専攻する専門分野の学修の集大成として特別研究により発展させ、修士学位論文の作成へとつながるカリキュラムを編成している。【研究科共通】

3.3 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学設置基準第21条を準用することとなっているため、本学も、講義1単位15時間、演習1単位30時間を原則としている。全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定するとともに、単位及びその修得について明示している。【研究科共通】

3.4 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

毎年度、DP評価および授業評価アンケート結果をもとに、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示している。

3.5 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

DPを達成するために次の3つのこと、①臨床検査学を発展的に実践できる。②様々な実践の場におけるリーダーまたは管理者としての能力の醸成や科学的な探求方法や態度を身に付けられる、③保健医療分野に関する広い見識をもてる、が実践できるよう、専攻のAP、CPとの関連を位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.6 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、看護学専攻との共通科目の医療情報や医療倫理、保健医療に関する科目のほか、医療技術科学の共通科目として、臨床検査技術学特論、医療技術科学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、先端医療科学特論、環境保健学を1年次に配置し、専門分野や特別研究を極めるうえで基盤となる科目を学修できるようにしている。続いて、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていけるように設定されている。

3.7 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業科目のナンバリングを通して各授業の性格を可視化することによって、個々の学生がリサーチワークとも連動させながら、主体的なコースワークを選択し、研究能力を段階的に高めていくことができるように工夫している。リサーチワークとしての修士論文の作成に重きをおき、指導教員による授業内外での個別指導に加えて、「修士学位論文研究計画発表会」「修士学位論文中間報告会」等を通じて、学生の調査・研究能力の向上を図っている。また、「研究指導計画」を策定し、標準在籍期間におけるコースワーク・リサーチワークの大枠を明示している。本専攻には社会人学生に加えて職を有しない学生も混在することから、それぞれの状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、学生と話し合いながら実施している。

3.8 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教育目標とカリキュラムの関係を図式化した上で、教育内容の検討と課程編成を行っている。カリキュラムに対する各種評価結果等から明らかになった課題を運営戦略会議に報告し、同組織が両専攻の研究科教員からなる新カリキュラム検討プロジェクトチームを発足させた。プロジェクトチームには、運営戦略会議構成員の学部長をオブザーバーとし、随時、運営戦略会議との連携がとれるようにしていた。提案された教育課程編成については研究科委員会・教務委員会の審議を経ている。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

3.9 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了後にも実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけること、臨床検査の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法や態度を身につけられるように、共通科目、専門科目を通じてこれらの能力育成を自身で考える機会を提供している。また、卒業後に、学会発表や論文投稿の協力等も行い、継続的に学究的態度を持ち続けられるような場を提供している。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業計画への自主学習情報の記載と提示、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価を行っている。また、授業の評価とFDについては、学生による授業評価や教員間のピア・レビューなどを取り入れて単位の実質化を図るための措置をしている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各専門分野内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

社会人学生が多い本専攻の状況にも配慮し、学生の学修状況に応じて、DP等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを周知している。特に近年は、コロナ対策にて対面学習からオンライン学習に変更になることが多かったが、その都度、学生に周知を行っている。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業形態に課題提示を行い、この課題をプレゼンテーションしてもらいながら、議論する機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、反転授業、グループによる文献のクリティークなどを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーション

ョンを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業で学習内容のフィードバックや学生からの質問を対面やメールで対応することで学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、入学前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施している。また、修了生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。科目履修については、指導教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応し指導を行っている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、学生の理解度を確認しながら指導を行っている。また、発話や具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や事前課題に対して、授業時内外に学生の学びのフィードバックを行っている。

4.8 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

専攻全体の研究指導計画に従って、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の個別指導計画書を立てている。また、論文研究計画発表会においては隣接領域を含む教員が院生に対組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。発表会では、院生が用意した研究計画を踏まえて、さらに掘り下げるべき点や欠落している点などを指摘して、論文の完成に向けた詳細なコメントを加えている。論文中間発表会では、修了学年以外も参加し次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立てている。論文中

間発表会と発表会では、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、効果はあがっている。

4.9 各専攻における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業内外の学生の学習を活性化し効果的に行うために実施した内容と実施状況について、各専攻内で共有を図るとともに、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

各科目の成績評価は担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じてレポートなどの結果で成績評価が行われている。【研究科共通】

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、他大学等での既修得単位については、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行うしくみを整っているが、これまで該当例はない。【研究科共通】

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置は講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて授業参加やレポートなどの結果で成績評価が行われている。論文作成にあたっては、本専攻は主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保している。令和3年度からの新カリキュラムでは特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を詳細に定め、より客観性・公正性を担保した。また、教授会において、専攻別のGPA集計表が配付され、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を検証している。【研究科共通】

5.4 修了要件を明示していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了要件は学則第 37 条に明示されており、医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、卒業・修了要件を口頭でもガイダンスを行っている。学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、論文発表会における指導によって学位論文および最終試験の審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。【研究科共通】

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、教務委員会の審議を経るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長（学科長）から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

5.6 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学生に対して学位授与方針と学位論文審査基準の明示と公表を行っている。

5.7 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置を講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学位論文発表会（最終試験）及び口頭試問審査意見の機会を設けており、いずれも指導教員以外の複数の教員が参加している。これらの結果と教務委員会による取得単位の確認とを合わせて、最終的に研究科委員会で判定することで、学位審査及び修了認定の客観性と厳格性を確保している。【研究科共通】

5.8 学位授与に係る責任体制及び手続を明示していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、あらかじめ公表されている手続と日程にそって院生に修士論文を提出させ、指導教員が副査、他の教員が主査・副査となって審査を行っており、学位に授与に係る責任体制及び手続きを明示している。【研究科共通】

5.9 適切に学位を授与していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学位授与方針を明示するとともに、学位請求論文の査読と口頭試問の結果に基づいて、教員による審議を行って学位の授与を決定している。【研究科共通】

5.10 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学位論文審査及び修了認定を適切に行うための措置、学位授与を適切に行うための措置について「学位授与規程」に添って実施している。学位授与の判定は運営戦略会議の構成員を含む教授のみの研究科委員会で実施されている。同規程の改正の必要がある時には教学マネジメント委員会から研究科委員会に問題提起し、各専攻の意見を集約して決定していく予定。本報告書は教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長（学科長）から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了時の4年間の平均GPA、単位取得状況、特別研究の成績を指標に学修成果を把握している。また、医療技術科学専攻の特性に応じた学位授与方針および論文審査基準、特別研究I・IIの評価基準を定めている。また、修了後の研究活動や卒後の活躍についても把握するようにしている。

6.2 学位授与方針に明示した学習成果を把握及び評価するための方法を開発していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、単位取得状況、4年間の平均GPA、各DP関連科目のGPA、DPアンケート（各授業・年間・修了時）を実施し、アセスメントプランに基づき評価している。また、各科目においては個別授業で受講者が行う課題や研究報告を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数のものが多く、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、助言やフィードバックを随時行っている。これに加えて、論文中間発表会および論文発表会での研究発表は、学習成果を組織的に把握し、院生らの到達度を評価できる方法となっている。また、全学的な取り組みのもとで得られた修了生からのアンケート結果をもとに、学習評価につなげて

いる。他にも、学部の実習等で修了生の就職先とも密に関わり、そこで得られた現場での意見等についても専攻内で共有したり、ホームカミングデーで修了生が大学院で学べたことや活躍に活かされていること等を聞く機会を設けたりしている。しかし、所属学生の数が少ないこともあり、現在の評価が最適とは考えておらず、客観的な評価指標や方法については今後も開発を継続する必要があると考える。

6.3 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学のアセスメントプランに基づき教学マネジメント委員会から検討課題や IR データの提供を受け、これらの結果の分析を行い、専攻の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定、学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発状況等について、専攻内で検討したことを報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長（学科長）から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、研究科会議をほぼ毎月開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。そのような点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について検討を行い、研究科委員会で審議を行っている。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、GPA 評価および授業評価アンケート結果に基づき、各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、専攻の取組みとして、学生の学習効果に貢献した指導方法等を専攻内教員で共有する機会を設けている。

(2) 長所・特色

全学的な取り組みのもと、医療技術科学専攻では、全専任教員が参加する論文研究計画発表会、論文中間発表会を設け、中間発表会で研究の掘り下げ方を助言・指摘することに

より、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制が整っている。

(3) 課題・問題点

修了後の学術集会での発表や学会雑誌への投稿の割合が高まってきたが、コロナ対策に従事する修了生も多く、修了後 1 年以内の発表や公表ができていない現状があり、速やかな研究成果の公表については課題がある。また、学部同様にコロナ対策下においてオンライン授業を積極的に活用してきたが、対面授業と比較したメリット・デメリットの分析については今後検討していく必要がある。

定員 3 名の上に、これまで定員を充足していない年度もあった。これに対して令和 3 年度のカリキュラム改正に続いて、令和 5 年度にも一部改正を予定しているが、教育課程の客観的評価が十分でないことが課題である。学修成果・教育成果とともに適切にかつ継続的に評価していく必要がある。

学生の受け入れ

研究科・看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っている。入学定員充足率の 5 年平均 (2017-2022) は 0.70 で、看護学専攻は 0.88、医療技術科学専攻は 0.40 である。在籍学生数の管理については、医療技術科学専攻の収容定員充足率が 0.83、看護学専攻が 1.50 と看護学専攻は定員を超過しているものの収容定員充足率は 2.00 未満であり、適切な範囲内に保たれている。このように、入学定員充足率、収容定員充足率は大学基準を満たしているものの医療技術科学は 2019 年の単年度ではあるものの、収容定員充足率が大学基準を下回り 0.33 となっていた。この改善を図るため、医療技術科学専攻の受験生増の取り組みを専攻を中心に行い、2020 年度は 0.50、2021、2022 年度 0.83 と改善をしている。入試制度や選抜の評価については全学的な組織である入試委員会等を中心に評価が行われている。本研究科では入学生の 95%以上が学位の取得が出来ており、学生の受け入れ方針に従った学生の選抜が継続的に出来ている状況を間接的に表していると考えている。

教育研究環境等整備・学生支援・社会貢献・大学運営

学部と研究科を一体とした大学レベルにおいて学内組織が円滑に連携を図りながら、教育研究環境等の整備や学生支援・社会貢献・大学運営を行っている。理事長を中心とする計画的かつ機動的な運営が図られ、外部資金の獲得に努めるとともに、経費削減等による余剰金を目的積立金として老朽化施設の改修や教育・研究機器の整備などに充てられ、必要な経費の効率的、効果的な執行を図ることができている。具体的には第二期中期目標期間に学部と共通のものを含め研究科関連では以下のような教育研究環境等の整備・学生支援・運営を

行った。

特に研究科に関連する教育研究環境の整備としては、大学院生室の整備、別館の Wi-Fi 環境の拡充、別館講堂の改修・スクリーンの整備、自主的学修支援のための図書館機能の充実（平日夜間及び土曜日の開館時間の延長、日曜日・祝日の開館日の拡大、文献検索システム・電子ジャーナルの利用方法に関する研修の実施、自宅等学外からの文献情報へのアクセス整備、ネット上から貸出資料の予約・文献取り寄せ依頼対応、データベースや電子ジャーナルの自宅利用対応等）があり、利便性が向上した。また、教員の研究環境の整備では配分された講座研究費の他に、学内での競争的資金である教育研究助成費（毎年 10 件前後）や外部資金である科学研究費補助金（令和 3 年度申請率 87.5%、新規採択件数 9 件）等、研究費の積極的獲得に取り組み成果を上げている。

学生支援は学生委員会を中心とする全学的な取り組みの他に、研究指導教員が履修指導や生活上の相談にのっている。就業していない学生には奨学金紹介やアルバイト紹介など、積極的に情報提供している。

社会貢献では、研究科独自の取り組みはないが、地域交流センターが窓口となった活動にそれぞれの専門性も活かしながら取り組んでいる。具体的な自己点検・評価報告は、毎年の「地域交流センター報告書」に記している。

質の向上に向けた取り組み

教育、学生支援、研究、社会貢献については、研究科教員は全員が学部と兼任しているため、学部と共通して様々な取り組みを行なっている。学内競争的研究費の一定額確保及び科学研究費補助金等の新規採択による研究の活性化、砥部町との連携協定締結による地域住民への貢献、保健福祉関係職研修等への講師派遣の実施、一般県民への公開講座、出張講座などの社会貢献、コロナ禍に関連する専門職派遣など、多くの面で質の向上を図ることができている。特に特徴ある取り組みとして以下のような取り組みを行った。

- ・他領域の者に対してわかりやすい説明ができるプレゼンテーションの機会を推進するために、各授業内での課題プレゼンテーションを実施するとともに、学外者も参加できる研究 計画発表会、中間発表会、修士論文発表会を毎年度実施
- ・コロナ禍においては、ICT を活用したプレゼンテーションの実施
- ・コロナ禍対応のため、修士論文発表会や口頭試問は、初めてオンライン上で実施
- ・地域の保健医療に貢献する上で基盤となる科目や指導力向上を目標とする科目で社会人学生並びに遠隔地から来る学生に配慮したウェブ会議システムや e ラーニングシステム等を活用した学修機会を確保
- ・現行カリキュラムの評価結果に基づき授業方法の改善とシラバスの内容の充実化
- ・専門職者として、リーダーシップを発揮できる人材の育成に向け、教育力を獲得できるよう大学院生のティーチング・アシスタント（TA）制度を継続実施